

第18回 ちゅうでん教育振興助成（平成30年度）

報告書資料 一般 - 90

学校名・団体名	玉野市立荘内中学校
コース	学校支援
活動・研究のテーマ	キャリア教育の視点で生きる力を育む教育課程の工夫

〈活動・研究の意義および活動報告〉

1 実施計画に至るまでの経緯及び研究の目的

岡山県玉野市は、人口減少に伴う社会構造の変化、人間的・職業的に未熟な若年者の増加、東京一極集中から地方創生へなどの観点に立ち、キャリア教育を柱とした中学校区一貫教育を推進している。これを受け、小学校と連携しながら、本校のこれまでのキャリア教育について内容・方法を検討・精選・改善し、キャリア教育を中心に据えた教育課程を開発する。

2 学校の概要

- (1) 所在地 岡山県玉野市木目1373
- (2) 生徒数・学級数 295名・12学級（うち3特別支援学級）

3 研究の組織・進め方

生徒の将来のキャリア発達に向けて、学力の伸長と人としての成長を2本柱とし、その上に立って、社会と繋がる学習活動を計画的に実践していくことが効果的であると考えた。そこで、全教職員を学力向上部会、キャリア教育部会、生活指導部会の3部会に分け、月1回の研究部会、それを受ける研究推進委員会（管理職・各部長）、全体会となる職員会議で協議しながら、岡山県教育委員会、玉野市教育委員会の指導・助言も受けて研究を進めた。

4 研究の内容

- (1) 学力向上部会：教師の授業改善、生徒の基礎学力向上と言語能力伸長を目指す。

①協同学習の実施

- ・全教科の授業にグループやペアによる学習を取り入れる。授業研究会を年3回実施し、近隣小中高校に案内をすると共に、岡山県・玉野市教委から指導・助言をいただいた。
- ・全教員が一人1回、協同学習を取り入れた授業を公開し、研修を行った。
- ・キャリア教育の視点で振り返りの項目を4点示し、各授業で振り返りを行った。

【(友と)かかわる力】【(自分を)見つめる力】【(課題に)挑戦する力】【(未来に)つなげる力】

②家庭学習の充実

- ・各学年に5教科の担当教員がいることを生かし、学年で協議して毎日の課題を出す。また、週明けを期限とする週末課題を各教科で調整しながら1週間単位で出した。
- ・生活ノートにある週2ページの自主学習欄を充実させる。良いものは掲示した。
- ・学校で作成した「学習の手引き」を活用し、学習の仕方を機会を捉えて指導した。

③その他の活動

- ・毎週火～金曜日の朝10分間は朝読書の時間とし、教員も一緒に読書を行った。
- ・毎週月曜日朝10分間、新聞コラムの視写と意見作文を行い、毎回コメントを書いた。
- ・毎日帰りの会の5分間、5教科の基礎学力定着のプリント学習を継続して行った。
- ・定期的に学習アンケートを実施して成果と課題を把握し、指導の充実・改善を行った。

(2) 生徒指導部会：人として必要な基本的な生活習慣の定着、自主性の伸長を目指す。

①基本的な生活習慣の定着

- ・「時を守り 場を清め 礼を正す」を重点とし、指導を徹底している。
- ・毎週1回の生徒指導担当者会で、生徒の状況を共通理解し、重点を決めて指導した。
- ・朝の会、帰りの会、学活・総合、全校集会等で生徒のよさを積極的に賞揚した。
- ・睡眠、食についての講演会や学習を行った。また、弁当の日を年3回実施した。

②生徒主体の学校づくり

- ・生徒会執行部が挨拶運動、地域ボランティア、スマホチャレンジ等を推進している。
- ・保健委員会「H2A運動（早寝・早起き・朝ごはん）」生活委員会「ありがとうの木」美化委員会「清掃コンテスト」など、生徒発案で学校生活改善の取組を充実させている。
- ・人権週間で、生徒が計画した全委員会の取組発表、全学級の道徳の学び発表を行った。

(3) キャリア教育部会：将来に目を向け、将来の夢をもち、進路を切り拓く生徒を育てる。

①中学校3年間を見通したキャリア教育の計画作成と核となる活動の充実

- ・1年生：5月宿泊研修 → 10月福祉学習 → 11月玉野名産温玉めし作り・オリジナルレシピコンテスト・屋台販売 → 1月職業調べ → 2月企業見学
- ・2年生： → 5月マナー講座・職場体験 → 10月校外研修 → 12月荘内中だっぴ → 1月高校調べ → 2月高校生の話を聞く会 → 修学旅行に向けて
- ・3年生： → 5月修学旅行 → 7・8月高校訪問 → 9月～進路決定に向けて → 12月社会人講話 → 1月面接指導 → 受験 → 3月進路決定

②キャリアファイル

- ・生徒用：学活や総合で活用したワークシートや成果物・振り返りをファイリング
- ・教師用：各活動の計画・準備・事前事後の学習内容・反省等を学年ごとにファイリング

5 成果と課題 (○成果、●課題)

(1) 学力向上部会

- 各授業で協同学習を取り入れることが定着し、生徒の話し合う力も向上した。
- 岡山県が進める授業「目標提示・自分で考察・評価・まとめ・振り返り」が定着した。
- 課題の出し方が共通理解され、生徒の家庭学習の充実に繋がった。
- 協同学習が教え合いに留まっている。主体的・対話的で深い学びの実現を目指したい。
- 本校が目指す「家勉100分」に到達しない生徒が多い。課題の出し方や点検の仕方の工夫とともに、予習・復習の指導、自主学習の充実、平素の指導の徹底を図りたい。
- 授業や学習指導に係る校内研修の時間が十分に確保できておらず、検討したい。

(2) 生徒指導部会

- 学校全体が落ち着き、望ましい生活習慣が定着して前向きに生活する生徒が増えた。
- 睡眠や食の大切さの理解が深まり、「早寝早起き朝ご飯」を実践する生徒が増えた。
- スマホチャレンジの懸垂幕製作、保健委員会の「早寝早起き朝ご飯」小学校出前授業、体育委員会のボール管理の自治活動等、全委員会が生徒主体の活動を充実させた。
- SNSの利用や就寝時間における課題を改善できない生徒がおり、指導を工夫したい。
- 挨拶の声が小さく、自分を表現する力が弱い生徒が多い。改善方法を探りたい。

(3) キャリア教育部会

- 3年間を見通したキャリア教育の年間指導計画が完成し、校内で共通理解ができた。
- 小学校と連携する9年間を通したキャリア教育推進体制が確立されてきている。
- 2年生の荘内中だっぴに玉野市内から50名を超える協力者が来校した。1年生の企業見学や3年生の社会人講話でも市内企業及び市との協働体制を推進することができた。
- 教職員のキャリア教育の理解は深まったが、不十分な面もあり、更に向上させたい。
- 平成31年度に行う研究発表会で研究の成果を市内を始め各校に伝え、広げていきたい。
- 「自分を知り、他者と繋がり、課題に挑戦し、未来を切り拓く生徒」の指導について、まだ十分とは言えず、各部会の取組の充実と教職員のベクトル合わせが必要である。